

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870600750
法人名	株式会社 ジェイコム
事業所名	グループホーム丹原の郷
所在地	愛媛県西条市丹原町池田 1 2 6 7 - 1
自己評価作成日	平成21年7月20日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成21年8月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・季節の果物狩りに出かけている。（苺・すもも・いちじく・柿など）
・ソファや椅子を廊下や居室に置き、自由に座ってくつろいでいただけるようにしている。
・食事やおやつなど利用者の方と手作りし、食が楽しめるよう努めている。
・利用者個々の菊の鉢を作り、秋の菊見会にむけて育てている。
・丹原町商店街七夕祭りには利用者で作った飾りを出展し、地域の方と協力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

地域で行われる敬老会には、職員代表がお手伝いに出ておられる。事業所が育てている菊を展示する「菊見会」には、多数の方が訪れている。野菜を届けて下さった方は、お茶を飲んで帰られたり、利用者が庭でお茶を飲んでいると立ち寄ってくれたり、又、葉牡丹を育てることを協力して下さっている。
旬の野菜や地元の食材を使用するよう心掛けておられる、梅干やらっきょう・佃煮の他、白菜や野沢菜等の漬物も手作りされている。利用者は食材の下ごしらえや下膳・食器洗い等、個々に出来ることを職員と一緒にされている。調査訪問時には、地元の方からいちじくの差し入れがあった。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 該当するものに 印		項 目		取 り 組 み の 成 果 該当する項目に 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています （参考項目：9,10,19）	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、生き活きと働いている （参考項目：11,12）	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらいが					
		3. 利用者の1/3くらいが					
		4. ほとんどいない					

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職 員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム丹原の郷

(ユニット名) 南町

記入者(管理者)

氏 名 山内 美登里

評価完了日 平成21年 7月 20日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 職員がそれぞれ理解でき覚えることができるように、各自の名札の裏に理念を記載しており、日々確認することができるようにしている。理念を基本とした考え方を共有し、職員間でも話し合いをし実践できるよう努力している。	
			(外部評価) 理念の一つに「地域の行事に参加しよう」と掲げ、積極的に地域とかかわる事をすすめておられる。地元商店街の七夕祭りには作品を出展され、今年は「愛媛銀行賞」を受賞された。又、七夕祭り実行委員会には職員代表も参加して、地元役員との交流の輪も広がった。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 敬老会の案内を頂いた地区の利用者の方は、希望を聞き家族の了解のもと参加している。地方祭・七夕祭り・地区の運動会・年始の行事の案内を頂き、参加している。ホームで菊見会を催しており、地域の方や近隣老人施設の方を招待している。	
			(外部評価) 地域で行われる敬老会には、職員代表がお手伝いに出ておられる。事業所が育てている菊を展示する「菊見会」には、多数の方が訪れている。野菜を届けて下さった方は、お茶を飲んで帰られたり、利用者が庭でお茶を飲んでいると立ち寄ってくれたり、又、葉牡丹を育てることを協力して下さっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の方から認知症の相談を受けている。運営推進会議を通して、認知症についての理解を深めていただけるような話をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 利用者・家族・地域の方・市の職員の方に参加して いただき、事業所としての取り組みをアルバムを使って 報告し、率直な意見を聞かせて頂いている。また、会 議で意見を早い時期に取り入れるよう実践している。	
			(外部評価) 会議案内は、全家族にされており、ユニットごとに利 用者の代表者も参加されている。初めて参加されたご 家族から、意見箱設置の提案があり、元々あった意見 箱を大きなものに替えられた。婦人会長の方からの提 案で、婦人会会員と利用者で「いも餅」作りをされ た。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 管理者が対応している。運営推進会議に参加してい ただいている。	
			(外部評価) 市の介護相談員を受け入れておられ「利用者の気持 ち」等を聞いてもらっている。市の職員に「高齢者の 尊厳と保持」と題して全職員に向けて講演していただ いた。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 研修に参加している。事業所内での勉強会で取り入 れ、職員全員が理解を深めていけるよう取り組んでい る。身体拘束は行っていない。日中は、入り口などに 鍵はかけておらず、利用者個々の希望に応じて、戸外 で過ごせるよう支援している。	
			(外部評価) 管理者は、「人として自分がされて嫌な事はしない」 等、日頃より職員に「立場を換えて考えてみる事」を 話しておられ、利用者の立場になって考え、拘束のな いケアに取り組まれている。ユニット職員同士の連携 も図りながら、利用者を見守っておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修に参加したり、事業所内で勉強会を行い理解を深めている。日々の申し送りなどで、指導したり、声かけひとつにおいても、職員同士で注意しあっている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修に参加して学んでいる。必要があれば、管理者が対応している。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者が対応している。入居前に、文書を用いて説明を行っている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 苦情相談窓口を設けている。運営推進会議で話し合う機会を設け、運営に生かしている。また、面会時に意見を頂くこともあり、職員間で話し合い実践できることはすぐにできるよう努力している。 (外部評価) 事業所では、利用者・ご家族に食事や行事についてアンケートをとり、要望を聞いておられる。又、運営推進会議時にも利用者やご家族の意見を聞いておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			事業所内で、年に1,2回管理者との個別面談を行っている。また、日常の業務の中で、意見を出し合い、反映させている。	
			(外部評価)	
			事業所職員で話し合い、介護用ベットや入浴リフトの導入を検討してもらえるよう、法人に要望されている。事業所の制服について、職員と法人とで話し合い、2通り（ブラウス・Tシャツ）から選べるようにされた。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			会社が、管理者を通して職員の意見を聞き、職場環境や条件の整備に努めている。新たに資格を取得した職員を表彰し、報奨金を貰えたりし、励みになっている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			参加したい研修には、積極的に参加させてくれている。また、外部の講師を招いたりし、研修会を開催してくれている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			関連グループ施設内で月1回勉強会を開催し、意見交換を行いサービスの向上に努めている。グループホーム連絡協議会東予地区の研修や相互研修に参加し、他の施設と交流が持てるよう努めている。	
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			事業所の見学をして頂いている。ゆっくりと話をすることによって、本人の不安や要望を汲み取り安心して過ごしていただけるよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前や入居時に管理者が対応し、家族の意見や要望を聞いている。入居時には、職員も家族の意見や要望を伺っている。面会時にも、家族の方と話をし、要望等を聞いている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用者・家族・管理者・職員・ケアマネージャーを交え話し合いを持ち、必要としている支援について話し合っている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者個々の生活リズムを把握し、できることはして頂き、職員や利用者同士で家事やレクリエーションを行っている。	
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時に、日ごろの様子を家族に伝えている。体調に変化のあったときは、すぐに連絡している。面会時には、ゆっくり過ごせるよう、お部屋に案内したり、おやつと一緒に食べていただき、よい関係が保てるよう支援している。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 敬老会の案内を頂いた地区の利用者の方は、希望を聞き家族の了解のもと参加している。事業所内のデイサービスの利用者の方の中に、知り合いの方がいれば、利用日に話が出来るように支援している。 (外部評価) 利用者の中には出身地の敬老会に参加する方もおられ、事業所で送迎されている。併設デイスサービスに出身地区の知人が利用されている場合は、時には、一緒に過ごせるような機会作りをされている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) お茶や食事の時間には、職員も一緒にテーブルを囲み、利用者同士の関係が円滑になるよう働きかけている。散歩時には、車椅子の利用者の方を積極的におしえてあげる利用者の方もいる。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 菊見会の行事に招待したり、入院した利用者に対してはお見舞いにいったりと継続的な付き合いができるよう心がけている。また、ご家族からの相談にも応じている。	
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 「認知症だから聞くのは無理」などと決め付けるのではなく、本人の視点に立って意見を出し合い、日々の関りの中で声かけ把握に努めている。 (外部評価) 日々の生活の中で職員が気付いたことや、ご本人・ご家族から聞き取ったことを「生活歴シート」にまとめておられる。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) プライバシーに配慮しつつ、ご本人やご家族から生活内容を聴き取るようにしている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 出来ることに注目し、安心と安全を保ちながらその人らしく生活していくように援助している。食事や水分摂取量や排泄チェック、バイタル測定をし、体調の変化を把握している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			3ヶ月ごとにカンファレンスを行い、プランの見直しを行っている。利用者の要望、家族の要望を取り入れながら計画を作成している。	
			(外部評価)	
			介護計画は、草案の段階でご家族に相談や提案等して、意見を出していただきやすいよう取り組んでおられる。計画は3ヶ月毎に見直しすると共に、事業所オリジナルの「ケア行動計画チェック表」で、毎月評価やモニタリングをされている。毎月行われるケアカンファレンスでは、利用者個々の目標や課題について話し合い、必要に応じて随時見直しされている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			個別記録に、日々の暮らしや体調・心の変化、本人の発言などを記録している。心身・体調の変化のあったときは、色分けしたラインを引き、全ての職員が確認するようにしている。	
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			病院受診・買い物など必要な支援は、家族と相談し対応している。	
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			歌や踊り、美容ボランティアの方が定期的に訪問しており、利用者の方は楽しみにしている。消防署の方の指導のもと、避難訓練を年2回実施している。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価)	
			週1回、協力病院の担当医師による往診がある。個々にかかりつけ医があることを職員が把握している。かかりつけ病院に家族が同行できない場合は、職員が代行して、家族に受診内容を伝えている。	
			(外部評価)	
			市内の病院を受診する際は、職員が同行することが多い。都合によってご家族の協力をお願いしている。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価)	
			体調が悪い利用者がいたり、異変に気づいたときは、看護師に相談し指示を仰いでいる。施設の看護師や担当医師と24時間連絡が取れる体制をとっている。	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価)	
			入院時は本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供している。主に管理者が病院や家族と連携をとっている。	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)	
			本人や家族の意向を踏まえて、医師とも連携をとりながら、家族と話し合いを行っている。急変した場合は、すぐ対応していただけるよう医療機関とも連携を密にとっている。	
			(外部評価)	
			管理者は、「介護は職員・家族は愛情」をモットーに取り組んでおられる。状態変化時には早目にご家族に声をかけるようにされている。最期までホームで居たいと希望される利用者やご家族は多い。医療が必要となった時には主治医・ご家族等と、事業所でできることをお話しして、ご家族に判断してもらうようになっていく。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 勉強会を行っている。年1回、消防署の協力のもと、救命救急や応急手当の講習を受けている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の指導のもと、年2回に避難訓練を行っている。消火器の使い方の訓練も受けている。 (外部評価) 2 階ユニットは、ご自分の力で歩行できる方が入居するようになっており、普段から階段の上がり降り等されている。避難訓練は年 2 回実施し、誘導方法等は、マニュアル化されている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 排泄や入浴の時など、声かけに配慮し、お誘いしている。勉強会や月1回のユニット会で、言葉かけや対応の仕方を見直し、話し合いをしている。 (外部評価) 職員は、「声の大きさ」に気を付け、「ゆっくりと話す」ことを心がけておられる。職員の利用者への対応について、その時々で職員同士で話し合うようにされている。調査訪問時、職員はゆっくりと利用者に声をかけ、ご本人に了解を得てからかかわっておられる様子がうかがえた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者に合わせて声かけしたり、聞き取りにくい方に対しては筆談をして対応している。着る服を本人に決めていただくようにしている。食べ物話をし、食べたいものを聞き出して、メニューに取り入れている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その日その時の本人様の気持ちを尊重している。散歩やレクリエーション時、個々の心身の状態や気持ちに配慮しながら柔軟に対応できるよう努めている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 外出、行事の時は、職員がお化粧を勧めることもある。着る服をご本人に選んで頂けるよう支援している。「なんでもええ。」とおっしゃる利用者に対しては、職員が2つの服を出し、どちらが良いかご本人に選んでいただけるよう支援している。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食材切り、盛り付けなど一緒に行っている。包丁が上手く使えない利用者に対しては、スライサーを勧めたり、いりこの骨取りや葉をちぎるなど指先を使ったことを一緒にしている。 (外部評価) 旬の野菜や地元の食材を使用するよう心掛けておられる。梅干やらっきょう・佃煮の他、白菜や野沢菜等の漬物も手作りされている。利用者は食材の下ごしらえや下膳・食器洗い等、個々に出来ることを職員と一緒にされている。調査訪問時には、地元の方からいちぢくの差し入れがあった。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量、水分量を一日を通して記録している。お茶は好まないが、汁物の好きな利用者の方に対しては、食事時、汁物を多めにしている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、歯磨きを勧めている。義歯の磨き残しがあれば職員が介助している。週2回、就寝前に義歯の洗浄剤を用いて、義歯の洗浄をおこなっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			時間や習慣を把握し、トイレ誘導を行っている。一人一人の状態を把握し、紙パンツの使用を減らしていけるよう職員間で話し合っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	
			日中、身体を動かすレクリエーションや体操を行っている。毎朝、ヨーグルトを食べていただいたり、排便の状態によってセンナ茶を勧めている。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			入浴回数や長さは利用者の希望にあわせるようにしている。時間帯は、職員の人員の都合上、午後からの入浴となっている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
			リビングにソファを置いたり、廊下や居室に椅子やソファを置き、ゆっくりとくつろげるようにしている。就寝前には、温かい牛乳を飲み、寝付きやすくなるよう配慮している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個々の薬表を1冊のファイルに整理し、職員が内容を把握できるように努めている。服薬時は、本人に手渡したり、口に入れるなどきちんと服用できているか確認している。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食材切り、下ごしらえ、裁縫など、一人一人の得意なことや出来そうな仕事を依頼し、感謝の言葉を伝えるようにしている。利用者の経験や知識を発揮していただき、梅干作りやらっきょう作りなどを行っている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気や本人の気分や希望に応じて、散歩に出かけたり、お弁当を持って戸外に出かけたりしている。果物狩りにも出かけている。 (外部評価) 利用者の希望を募って毎朝近くを散歩されており、玄関には麦わら帽子が用意されていた。各ユニットでは写真等を見ながら、利用者の行きたい場所の希望等を聞き取り、出かけられることもある。個々の買い物他、墓参り等はご家族の意見を聞きながら、職員がお連れすることもある。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 施設内ではお金を使うことがないので、個別に必要な時に立替え払いをしている。少額のお金に入った財布を金庫で預かり職員が見守りながら支払う利用者もいる。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 年賀状を出す為の支援を行ったり、利用者の希望に応じて便りが出せれるよう支援している。家族や知人から便りがきたら、できるだけ返信できるように、職員は葉書を用意したり一緒に文章を考えたり支援している。電話の要望があるときは、プライバシーに配慮し、電話しやすい場作りをしている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			共用の空間に花や緑・果物を飾るようにしている。壁面にも季節感を取り入れている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(外部評価)	
			菊見会に向けて沢山の菊が育てられている。利用者が水やりをしてくれることもある。トイレには手すりを設け、利用者が使いやすくされている。居室の窓にはすだれがかけられ、夏の日差しを和らげてあった。	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			入居時に、ご本人が使い慣れている家具や日用品を持ってきていただけるよう家族の方に話をしている。家族の写真を飾っている。家族からの手紙を貼ったり、ファイルにまとめている。作った作品を飾っている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(外部評価)	
			使い慣れた家具を持ち込まれたり、娘さんからの絵手紙や日常のお気に入りの写真を貼った居室もみられた。花の好きな方の居室には、職員が季節の花を飾っておられた。消臭効果がある観葉植物を置いておられる方もあった。	
55			(自己評価)	
			トイレには、見えやすい表示をし、自分でいける方は自分でしている。部屋の前に表札をかけており、自分の部屋だと認識できる方は、表札をみて確認している。靴箱に名札を表示している。	